

2016年

4月9日(土) - 6月5日(日)

10:00 - 18:00 入館は17:30まで、月曜休館

一般1000(800)円、大高生・65歳以上800(600)円、中小学生以下無料  
\*障がいのある方は半額・その付添者1名は無料、( )内は20名以上の団体料金

主催：公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館

企画制作：福岡県立美術館、テレビ西日本

目黒区美術館

meguro museum of art, tokyo

〒153-0063東京都目黒区目黒2-4-36 Tel.03-3714-1201 FAX.03-3715-9328

www.mmat.jp

光と闇に眼を凝らし、  
写実を極めて、慈悲を想う…  
画壇に背を向け、つらぬいた絵画探究の道。  
野十郎の世界、再び…


没後40年

# 高島 野十郎 展

光と闇、魂の軌跡

Takashima Yajuro

《百合とヴァイオリン》 大正10年代(1921-26)頃 目黒区美術館蔵

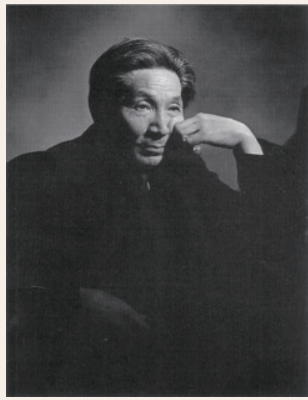


# 高野十郎展

光と闇、魂の軌跡

没後40年

Takashima Yajuro



高野野十郎氏 1952年 撮影：片山攝三

高野野十郎(1890-1975)は「孤高の画家」「蠟燭の画家」として、NHK「日曜美術館」でも再三取り上げられるなど、近年多くの人々から注目を集めている洋画家です。

明治23(1890)年、福岡県久留米市に酒造家の四男として生まれた野十郎は、東京帝国大学農学部水産学科を首席で卒業。その後、念願であった画家への道を選び、敢然と歩みだしました。「世の画壇と全く無縁になることが小生の研究と精進です」とする野十郎は、独力で油彩技法の研究を重ね、会派や団体などには所属せず、家庭を持つことさえ望まず、自らの理想とする写実的な絵画を生涯にわたり追求し続けました。

野十郎の超俗的な画業は、生前には広く知られることはありませんでしたが、福岡県立美術館によって「再発見」され、その後は展覧会を重ねるにつれ、単なる再現的描写を超えた生命感あふれる精緻な写実表現、光と闇に込められた高い精神性が、ますます高く評価されています。

本展の巡回は高野野十郎の没後40年にあたる平成27(2015)年にスタートしました。孤高の画家・高野野十郎の到達点ともいえる「蠟燭」や「月」の連作、さらには風景画や静物画など、代表作を数多く含む140点以上を、五つの大きなトピックに沿ってご覧いただけます。また、近年新たに発見された作品、これまで紹介されなかった作品、科学的調査による技法分析結果などもまじえ、人々の心と目を引き付けて止まない高野野十郎の深遠なる絵画世界の全貌に迫る、「決定版」ともいえる展覧会です。目黒区美術館では昭和63(1988)年に「光があるから闇がある—高野野十郎展」を開催して好評を博して以来、28年ぶり待望の開催となります。

記念講演会 **野十郎の奇蹟**  
西本匡伸(福岡県立美術館副館長)  
2016年4月23日(土)14:00~15:30

大人のための美術カフェ  
(トークイベント)  
2016年5月7日(土)14:00~15:30  
担当学芸員

会期中、当館学芸員によるギャラリーツアーほかを予定しています。詳細は当館ウェブサイト等でご覧ください。



- ・JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営三田線＝「目黒」駅(西口)から徒歩約10分
  - ・東急東横線・東京メトロ日比谷線＝「中目黒」駅から徒歩約20分
  - ・東急バス＝「権之助坂」(目黒通り)下車徒歩約5分、「田道小学校入口」(山手通り)下車徒歩約3分
- 目黒区民センター敷地内

目黒区美術館  
meguro museum of art, tokyo  
〒153-0063東京都目黒区目黒2-4-36 Tel.03-3714-1201 FAX.03-3715-9328  
www.mmat.jp

《メルマガ会員募集》  
メルマガ会員募集中  
https://service.sugumail.com/mmat/

1 旧制中学や東京帝国大学在学中の貴重な初期作をはじめ、独力で油彩技法と写実を探究した若き日の野十郎の姿。

初期作品 理想に燃えて



つりさげられた鳥 大正11(1922)年 個人蔵



静物 大正14(1925)年 福岡県立美術館蔵

2 昭和5(1930)年、野十郎はアメリカを経てヨーロッパへ。異国の空気と光が野十郎の絵画に何かを新たにもたらした。

滞欧期 心軽やかな異国体験



霧と煙 ニューヨーク 昭和5-8(1930-33)年 福岡県立美術館蔵



ベニスの港 昭和5-8(1930-33)年 個人蔵

3 旅を愛し、旅を描いた野十郎。透徹したまなざしが、草花や地形の織りなす妙、一瞬の水、天候や光に向けられる。

風景 旅する画家



れんげ草 昭和32(1957)年 個人蔵



流 昭和32(1957)年頃 杏林大学蔵

4 果実、陶器、織物...。素材の微妙な表情に迫る野十郎の静物画は、ひとつひとつが画面の大きさを超えた存在感に満ちている。

静物 小さな宇宙



割れた皿 昭和33(1958)年頃 福岡県立美術館蔵



さくらんぼ 昭和32(1957)年 個人蔵

5 光と闇、太陽や月、そして揺らめく蠟燭の炎。精緻な光の表現は、神秘的な精神性を湛えた野十郎絵画の到達点。

光と闇 太陽 月 蠟燭



林辺太陽 昭和42(1967)年頃 東京大学医学研究所蔵



蠟燭 制作年不詳 久留米市蔵